

平成29年度第1回狭山市社会教育委員会 会議録

開催日時 平成29年5月29日(月)
10時00分から12時30分まで

開催場所 市役所6階 602会議室

出席者 向野教育長
小暮委員 矢武委員 江頭委員 大野委員
小川委員 金子委員 後藤委員 近藤委員
鈴木委員 名雲委員 森山委員 山田委員
江上委員 小林委員 小口委員 西村委員
吉田委員

欠席者 篠塚委員 高橋委員 野村委員

事務局 滝嶋生涯学習部長 田中社会教育課長
社会教育課社会教育・生涯学習担当 三浦 遠藤 三ツ木

その他 内藤中央公民館長 菅野教育指導課指導主事

傍聴者 0名

1 開 会

2 あいさつ 議長 教育長

事務局職員紹介

3 議 事

(1) 社会教育関係団体運営費補助金について

- ・社会教育関係団体運営費補助金について事務局から説明

補助額について、29年度は28年度と同額を予定している。配布資料については、昨年度要望のあった、各団体の活動の主な内容と成果を追加した。自主財源の比率の低い団体もあるが、それぞれに、公益性の高い活動を行っている。

委員 各団体は自主財源をどう集めているのか。

事務局 主には会員からの会費。例としてPTA連合会の自主財源は各学校でPTA会費として徴収し充てている。

委員 絵本の読み聞かせ等を行っている団体も同じなのか。

事務局 地域文庫連絡会については、構成団体である5つの文庫が連絡会に会費として納めている。文庫の活動に参加する児童や保護者からの会費徴収はない。各文庫の活動はボランティア。

(なお、委員より5文庫について質問があり、事務局が活動の地域と文庫名を答える。)

委員 全体の予算額はどうなっているのか。

事務局 資料にある金額の総額である。

事務局 補足として、社会教育関係団体は市内に多く存在するが、社会教育関係団体補助金については、個々の団体ではなく、連合体の組織として活動を行っている団体に対して、その運営費を補助している。

委員 自主財源を集めることが困難な「地域文庫連絡会」には100パーセント補助しても良いのではないかと。

事務局 100%補助することは、この運営費で事業を行うようにと、行政主導となってしまふ。市の補助金の趣旨として、市民の自主的な活動の一部を補助するものとしており、限られた予算の中で配分している。

議長 昨年と同じ議論となるが、毎年同じ金額が出されていて各団体のバランスもどうなのかと思うので、どうしてこの金額になっているのか、補助金の金額の根拠について説明いただけたらと思う。

事務局 補助金については、それぞれに要綱を制定し、限られた予算でこういう目的で補助する規定となっている。それについては、次回の会議に提示したい。社会教育法の中に、社会教育関係団体への補助金については、社会教育委員の意見を聴くという規

定があり、今回も交付団体、金額について報告した。

議 長 今日、このような意見が出たということで、よろしいか。補助金については、ドライに考えれば、活動費の50パーセントを補助するとかであれば分かりやすいわけであるが、社会教育関係団体補助金について、市としてどういった形で支出していくのか、一定の基準を考えることも一つだし、あるいは、公益性の高い団体については自主財源比率に係らず支援して行くとか、市としての方向性を考えることが必要だと思う。是非、市としての考えをもって補助金を交付して欲しい。

(2) 社会教育委員会議の取り組みテーマについて

議 長 前年度、自由な議論を行い、議事録を見ると何となく方向性が見えてきたような感じがしている。前回、狭山の学校支援の具体的な姿を知ることで、議論が深まるのではないかということになり、今回、狭山市の現状把握のための資料として用意した。これらをもとに狭山市の現状の把握を行い、考えていきたい。

・配布資料について事務局から説明

議 長 本日、沢山の資料が用意されたが、なかなかトータルで把握できていない印象がある。まずは、具体的な事例から狭山市の現状を見ていきたい。広瀬小学校で学校応援団を実践している委員から、活動の報告と考えなどをお伺いしたい。

委 員 自分は広瀬小学校で6年生の保護者として学校応援団のコーディネーター(以下CNと表記)を、子供が卒業した後も地域住民として関わっているもう一人と二人で行っている。自分も広瀬小学校のことしか分からないので、他の学校のCNの方がどのようなやり方で行っているのか知りたいと思っている。

まず、「ボランティアだより」は、それまで、学校が出していたボランティア募集の案内に代わり、平成24年度からCNが作っている。非常に効果があり、ボランティアが増えている。

「説明会」もCNからの便りになってから参加者が増え(60人の登録の内40人が参加)、映像を流して、お手伝いできることが沢山あること、誰もがそれぞれに関わることができることを伝え、保護者のボランティアも、地域のボランティアも年々広がりを見せている。

環境整備は地域の人が担っている。それを保護者は知らない。知らない人に知らせることもCNの役割だと考え、写真を撮りためている。

説明会の時に、「皆さんは保護者としてまた地域の人として単独でボランティアをしているのではなくて、《学校応援団》のメンバーとして活動している」ということを強調している。学校への要望等も必ずCNを通して行うことになっている。

ボランティアが増えることでのメリット、そして心がけていることとしては、①学校に関わることや役員になることが多くの人にとって普通のこととなること。②CNだけが動くのではなく、沢山の人の役割を振り、組織として動くことで、CNが代わっても継続できるような体制を作ること。③一番のメリットは、活動により顔見知りができる、あいさつができる関係が地域に生まれること。保護者のつながり、地域のつながりが、防犯にも繋がる。多分子どもたちに良い影響を与えていることである。

委員 理想的なCNの活動をしているが、活動は学校から提案されての活動か、自発的な活動か。

委員 自身で学校に提案した。

委員 多くのCN(支援ボランティア)は、CNの立場というのは、学校から依頼されて動くものと考えていて、能動的に動けてい

ないのではないか。CNの立場を明確化することで、受動的なCNが能動的なCNに変わることができるのではないか。これを提言に入れることで、能動的に動くCNに変わってもらえるのではないか。

委員 学校からボランティアだよりの作成等頼まれたことはない。一昨年までは、学校応援団のCNとSSVCのCNである自分と二人いたが、学校応援団のCNが高齢のため辞め、現在自分が兼任しているが、学校からはSSVCの仕事を依頼されており、基本的には学校からの要請を受け、支援をしている。資料2-2で富士見小は「学校応援団に係る会議」を行っていないとなっているが、昨年秋に初めて開催した。関係者が多く、自治会、民生委員、教育委員等多くみえて、意見の場というより学校からの伝達事項で2時間が終わってしまった。沢山の人が学校に関わっている中で、それをどう効率よくコーディネートしていくかということは、学校の中だけでも大変。それをより広げてどうしていくかとなると非常に大変だと感じている。広瀬小学校では、CNが全体をコーディネートしているが、富士見小の場合は学校が全体を掌握して、それぞれに依頼している。

議長 コーディネートする人がいないとか、横のつながりがCN自身に分からないとか、その点が現実問題としてあることが見えた。

SSVCのこと、そして何が問題なのかについては、どうか。

委員 SSVCの問題として、始まって10年が経過して、新しい人が入る率が減ったこと。平均年齢が上がっていること。基本的には地域住民に支援依頼しているが、高齢化に伴い人材が不足している。若い人を支援者に取り込みたいが、保護者との連携が取れていない。個人情報保護との関係もあり、連絡をとることができない。いろいろな人に声をかけたいが、どうやって

連絡していったら良いかが、問題点の一つになっている。

もう一点は、学校の窓口の先生が異動した場合、次の担当者への引き継ぎ等がないことが往々にしてあり、やり方等が分からなくなってしまうこと。長期的見通しが立てられないこと。学校毎にやり方が全部違うので、SSVCでも全体の把握が出来ていない。何らかの形で、共通情報を基に行うことができれば、もう少し楽に活動できるのではないか。

議長 SSVCに新しい人が入って来なくなってしまった理由は何か。

委員 推測だが、まず高齢化。SSVCの活動は授業支援なので、平日の昼間、またスポットで自分の手が空いた時だけ支援するのでなく、継続性が求められるので、責任が伴い、登録には多少ハードルが高い。登録者数は、当初130人だったが、一時530人に増えた、年間で活動している人は300人前後であるので、数年前、登録はしているが支援実績がない人に登録の継続を伺い、また高齢化等諸般の事情で活動を辞退された人等を登録者から削除した。登録者数はここ数年約380人前後で推移しており、新しく入って来る人は少なく、ギブアップ宣言した方と新しく入って来る方でプラスマイナスゼロの状態。全体としては高齢化が進んでいる。これから後5～6年するとギブアップする方がどっと増えてくると考える。保護者や、子供が卒業した後でも学校支援に関わって行こうという若い方に、SSVCに入っていたらという思いもあり、広瀬小学校でSSVCのCNがギブアップした時に、SSVCのCNもお願いした。こういったケースを増やしていけたらと思う。

委員 補足として、SSVCには市民大学を卒業した人が登録することが多いが、市民大学そのものの受講生が減っている。また卒業してから、地域で何かやろうという人も減っているような気がする。例えば環境団体でも、ボランティアをやろうという

人が減っている。仕事をしている現役の世代に何かアプローチをして、「リタイアして時間が出来た時にはボランティアをしよう」という気運を作れないかと考える。

委員 定年延長等の今の働き方の影響も考えられるが、まだまだPRが不足しているということかもしれない。

委員 人口比率から言って、絶対量が減っているということがあるので、あまり焦らないことも大切。

委員 高齢者になってからボランティアを始めようというのはハードルが高い。その意味では、学校応援団は現役世代が関わるので、子供が通った学校には馴染みがあるので、子供が卒業した後も関わりやすい。子供が卒業したからはい終わりというのではなく、地域の人としてできる範囲で関わってくれる人を増やしていけたら良いと考えている。一時期はボランティア活動から離れても、また時間が出来た時に活動を始めることに抵抗のない人を増やしていくことに繋がって行くと思う。

保護者にとっては、SSVCは地域外も活動範囲としておりハードルが高いこともあるし、SSVCについて知らない人も多い。CNとして自分が繋げる一人になればと思うし、学校応援団の意義もそこにあると思う。

議長 2人の委員から学校応援団の現状を話してもらい、少しずつイメージが固まったのではないかと。前回の会議で、二人の校長先生が欠席だったので、学校の実情等、学校側からの話を伺えたらと思う。

委員 <資料2-4を基に中央中の学校応援団について説明>

(1)組織について・・・①学習支援ボランティアはSSVCにお願いしている。②「くすの樹会」は「おやじの会」で現役の保護者各学年10人(各地区から選ばれる)で構成。③部活動支援員は、各部2名の職員を顧問として配置しているが、全く

専門外の種目を担当する場合もあり、そのような場合に地域の人に指導員としてサポートしてもらっている。④図書館ボランティアは保護者で、図書館支援員と一緒に図書室の環境整備を行っている。

(2)活動内容・・・①SSVCには、数学と英語の応援に入ってもらい、教員一人では目が届かないところを補ってもらっている。年度当初に年間の打合せを行いスタート。生徒もSSVCが授業に入ることに慣れていて、気軽に質問したりする関係となっている。②「くすの樹会」は、行事の支援で、行事によってはOB会も含め、多くのお父さん方で学校を支えていただいている。入学式、体育祭、卒業式の自転車・車の誘導、音楽会での生徒が市民会館に行く時の安全確保、七夕まつりでの中央中生に避難所を兼ねた模擬店で、売上の一部を学校に寄付(去年はスポットライトを寄付)、狭山市の綱引き大会の技術指導、キャリア教育は、くすの樹会の人学校に来てブースを設け、自分の仕事について子供たちに教えてくれる取り組み。③部活動指導員は、土・日を中心に来て指導してもらっている。④図書館ボランティアは、図書館指導員と連携して、図書の整理や掲示物の作成を行っている。

(3)本校の課題・・・①それぞれが独自に活動している。組織として1つではない。本校の場合、正式には学校応援団のCNは設けていない。教頭が窓口になって調整をしている状況。教頭の仕事が多いので、こういった調整をどなたかにやっていただけると良いのかもしれないが、学校の一年間のスケジュールとか、熟知している方が就くとスムーズに流れていくのかなと思う。②それぞれのグループと生徒との温かい関係が出来ているが、それぞれの団体同士の連携はできていない。全体でというのはこれから。

委員 学校の中にいろいろ支援で入っている中で、学校はしょうがないと思われる点があるかと思うが、CNで学校のことが分

かっいて活動が出来る人はなかなかいない。そのような人をCNに据えられるかどうかは問題。社会教育は「人」、その「人」の部分はどういうふうにして行くか。お願いすれば出来るというものでもない。そういう人材を探せないとしたら、教頭や教務主任がやるしかないわけだが、年度が代わって人事異動があるとその度に支援者の皆さんに迷惑をかけてしまう。この「人」の問題を、どういうふうに育て、各学校に配置できるか。校長も地域と日々関わっていく中で、2年目3年目になってやっと、地域の人との繋がりが分かってくる。常勤ではなくボランティアであるCNにそれを求めるのは難しい。地域でいろいろな活動を行っていて自分のネットワークを持っている方はできるかもしれないが、CNにふいと当てられて、出来るわけがない。

委員 はじめは保護者の繋がりだけで、地域のネットワークを持っていなかった。手探りで、しかしある程度まめに、電話とかして行った結果、繋がりを作ることが出来た。

委員 <資料2-3を基に御狩場小の学校応援団について説明>

自分の前任校の例だが、継続した活動が続いている。また新たな取組みにも積極的。これは、校長の力ではなく、CNの力。御狩場小のCNは、校務員だった人で、地域活動を活発に行っている人なので、①学校の動きと学校の職員を知っている。②地域の資源、人材を知っている。⇒公民館のサークルなどにもすぐ繋いでくれる。職員に「こうしたら良いのでは」とアドバイスもしてくれる。まさしく全体把握が出来る人がCNとなっている事例である。各学校で事情が違う。学校応援団は「人」をどうやって配置できるかに尽きる。

委員 取組みテーマ「地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みについて」に戻ると、子どもの成長を支える仕組みづくりは、学校応援団だけではない。PTAや、地域子ども教室もあれば、また、学校の中に入るだけでなく学校の外側も含

めてのテーマだと考える。もう少し広く捉えないと余り良い提言とならないのではないか。学校応援団だけだと、人の配置をどうするかに尽きる。例として、さいたま市では、各学校に校長上がりの人を週3日CN役として配置し、学校の事情を分かりながら地域(各団体)との繋ぎを職務として行っている。これをボランティアでやってもらえるようにというのは、難しいということに収れんしてしまうと思う。

子どもの成長を支えるということ考えた場合、他の団体組織のことも考えていかなければならない。例えばPTA改革なども必要。旧態依然としてやっている組織は衰退するだけ。働く世代が、忙しい中で地域活動にどんな関わりを持って行けるか、そういうことを考えることが必要ではないか。

議長 大きなテーマについての意見をいただいた。2月の入間地区生涯教育フォーラムのテーマも、「PTA、公民館、自治会、子ども会が曲がり角に来ている。どうやったら活性化できるか」という話で、新時代(インターネット、スマホ時代)の人の繋がり方が議論された。この会議においても、次年度以降のテーマになるのではないかと考える。

委員 「さやまっ子チャレンジスクール」事業は地域の方が放課後に学習支援を行う新たな事業で、教育指導課がSSVCに委託している。一方、地域の人が生涯学習の一環として授業に入っている活動を、今、社会教育で議論している。本来ならば、放課後の学習支援が社会教育の分野かなと思うのだが、それぞれの事業の担当課である教育指導課と社会教育課の連携はあるのか。また、コミュニティスクールについて検討はしているのか。

事務局 「さやまっ子チャレンジスクール」は昨年度からスタートした事業で、学校との連絡調整を教育指導課が担当している。コミュニティスクールについてはまだこれからだが、検討はしている。

委員 市役所の中でばらばらに動いているように感じてしまう。地域学校協働本部が主導するのか、コミュニティスクールという形になるのか分からないが、検討を総合的に行うことはできな

いのか。

事務局 「学校応援団」については、社会教育課と教育指導課それぞれに担当者がいて、一緒にやっている。「学校応援団」が社会教育と学校教育の接点となっている。文部科学省の図(補足「次世代の学校・地域」創成プラン)に示されているように、地域学校協働本部について社会教育の分野で議論を行い、学校は学校で「チーム学校」という体制づくりを進めるということで、同じ部署が関わるというより、連携しながらそれぞれが進めていくという図になっている。ここで両方共がスタートしたので、情報交換しながら進めて行こうと思っている。

委員 コミュニティスクールについては、まだ教育委員会としての方針はできていない。勉強の段階だと聞いている。

委員 「地域子ども教室」の開設状況に地域差があるが。

事務局 狭山市では、行政が放課後教室を設置するというやり方ではなく、それぞれ保護者や地域住民の思いから出来てきたという経緯ある。また、募集定員等が限られているが、体験教室を含めれば、市内の全児童がいずれかの教室には申込みができる。

委員 子供たちの放課後が危ないと言われている中、市が積極的に開設して行くことはできないのか。

委員 地域子ども教室があるから放課後が安心ということではなく、子供たちの活動の場を、月に1回程度地域の人を作っているということである。

事務局 水富地区では、放課後子ども教室の活動とは別の形で、地域住民による子供たちに向けた事業がスタートした。

議長 「地域学校協働本部」と「コミュニティスクール」については、まだ緒についたところで、いずれは二つを統合する動きが出てくはずだと思う。

委員 要望事項として、1点目は、今回もいろいろな資料を提示していただいたが、特定のテーマの議論の場合、たとえば今回の焦点は「学校応援団」であるのだから、並列的に資料を提示す

るではなく、切り口を明確にして出して欲しい。2点目は、社会教育委員の役割を鑑みて、特定のテーマを研究するというのがメインではあるが、会議の折々に、市や教育委員会が今考えていることを出していただいて、20人のメンバーの意見を吸い上げるということをやって欲しい。3点目は、今日教育指導課の方に参加いただいたが、その他、教育委員等にも参加していただけると良いと思う。検討して欲しい。

議 長 1点目については、課題として行きたい。2点目の、取り組みテーマ以外の社会教育のタイムリーな問題についても、毎回の会議に取り上げていく件についてはどうか。

委 員 図るべき事案があれば別だが、取り組みテーマ以外の議論は無理だと思う。

事務局 今回の第5次生涯学習基本計画については、策定のスタートが遅れてしまったということがある。次回は、意見を吸い上げられるよう進めて行きたい。

委 員 計画のことは一例で、毎回の会議で、もっと積極的に意見聴取を行って欲しいということである。

事務局 毎月開催される教育委員会会議とは違って、基本年3回の社会教育委員会会議で、提言に向けたテーマ以外の議論に時間を作ることができるかということがある。狭山市では、市が諮問しそれに対し検討していただくという形ではなく、2年間の任期中に、社会教育委員会から市に提言をするという方法をとっており、提言のために会議を運営していると認識している。

議 長 タイムリーな事案があった場合はぜひ伝達していただきたい、正副委員長との打合せ等で相談していただけたらと思う。3点目の要望はいかがか。

事務局 他市の例では、社会教育委員のメンバーに教育委員が入っている場合がある。当市はそういう体制を取っていないこともあり、教育委員会事務局の方でも詰めさせていただきたい。

委 員 富士見小でいうと、CNと、図書ボランティアでは、別の動きをしていて、全く接点がない。今後、地域学校協働本部とい

うものを考えるに当たり、横の連携を誰がとるのかという組織図を作っていく流れになるのだろうか。

議長 多分、同じイメージかと思う。論点は、組織の問題と人の問題にある程度集約されるのではないか。

委員 組織論ばかりで、何を目的として協働するのか、どういう子ども作りたいのかという視点がないと、議論が空回りしてしまうのではないか。今のままでは、どうすれば良いのかが見えない。

議長 どういう子ども作りたいのかという視点は大切なことではあるが、まずは、大上段に構えるのではなく、CNが今よりもっと動きやすくなるために、こうあったら良いのではないのかと提言できたら、それで良いのではないか。最終的には、地域に住んでいる人のまちづくりと、人づくりに活かしていくような事案に行き着けば良いが、まずは、今あるものを大事にして、それがもっと上手く活用できるようにするための応援という位置づけで行きたいと考えるがいかがか。

委員 具体的に、今あるものを新しく構築しようとかあるいは改善しようとかしていくと、いろいろな意見が出て収集がつかなくなってしまうことがままある、我々は市と一般市民との中間的なところにいるので、市が何かやろうとする時に、市に対して、我々が考える最適な方向、今回のテーマでいうと、地域学校協働本部の在り方とか、学校支援、SSVCの発展形とか、そういったところの議論をまとめて、狭山市全体でこういう仕組みですすめようという提案ができれば良いと思う。

議長 組織論にしてしまっただけではいけないのではないかということもあるが、学校応援団には、校長代表、学校教育部長、生涯学習部長、SSVCセンター長、地域子ども教室連絡会代表、PTA連絡協議会代表、教育委員、学校応援団運営委員代表で構成されている「狭山市学校応援団推進委員会」という組織がすでにあるが、それがどう活かされているのか。その辺が問題ではないか。まずは、地域学校協働本部はどうあるべきか、CNをどうしていったら良いか、各論に入っていくべきかを得ないと思

う。

今回、問題が浮き彫りになったことを受け、このスケジュール案に沿って、あと4回ぐらいの会議で提言までもっていきたいと考えるがよろしいか。

委員 前回の会議で、地域学校連携本部の意義を確認し、そして今回、その仕組みや問題点を考えた段階にある。議論が地域学校連携本部の意義に戻ってしまうと、振出しに戻ってしまうので、各々次の段階を考えて、議論を進めていく。

事務局 今回、文部科学省のガイドラインの抜粋を配布したが、文科省ホームページに全編掲載されており、先進地の事例等も掲載されているので、ぜひ次回の議論の参考としてほしい。

(3)その他 特になし

4 報告事項

(1)平成29年度狭山市教育行政の取組と重点について事務局から概要説明

(2)狭山市の公民館の取り組み(要覧)について中央公民館長から概要説明

(3)研修会等の報告と案内

西村委員長より報告

「入間地区社会教育協議会」10/4 研修会 2/21 生涯学習フォーラム

「埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会」5/30 総会・研修会

5 閉 会

山田副議長からあいさつ